

「産産学学」新たな業界コラボレーション

Academic-Industrial Collaboration Project 2017

11th FORM PRESENTATION

「日本発：未来に向かう快適機能素材」

“Future Comfortable Beauty～未来の快適美を創造する”

主 催：繊維ファッション産学協議会

特別協賛：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構

協 賛：U A ゼンセン

協 力：旭化成株式会社 繊維事業本部

【事業概要】

次世代の人材育成を目的とし 2007 年にスタートした産学コラボレーション「FORM PRESENTATION」。今回は、未来に向かう快適機能素材をテーマに旭化成(株)繊維事業本部の協力を得て、新しい価値創造を追求しました。テーマのコア素材「ベンベルグ® (= キュプラ)」は、現在世界で旭化成(株)だけが生産している、唯一無二の素材です。ほかの天然由来の繊維には真似のできない多彩な機能を備えており、用途によって様々な表現を変えることができる高級素材です。学生たちの様々なアイデアで、素材の美しさと機能性の双方を活かし制作した、近未来スタイル作品を発表しました。

【11th FORM PRESENTATION】 ～作品が完成するまで～

6 月	「ベンベルグ大学」開催
7 月	ポートフォリオで応募 審査会で 8 グループを選出
8 月	産地研修会
9 月～10 月	作品制作
11 月	作品の展示発表
12 月	成果報告会

■「ベンベルグ®大学」～キュプラマスターへの道～開催

素材知識を習得するための「ベンベルグ大学」を、大阪&東京で開催しました。ファッションを学ぶ専門学校生&大学の学生や、アパレル・小売りのMDやデザイナー、生産管理者など合わせて 350 名が参加し、ベンベルグの基礎知識や素材の魅力を講義と映像で学びました。

大阪：6 月 13 日（火）13:30～16:45 会場：大織健保会館
東京：6 月 20 日（火）13:30～16:45 会場：TEPIA ホール
（学生 500 円、一般 2,000 円）

テーマ： 「未来における快適な素材」

[講座-1] 「ベンベルグ®の基礎知識」

《講師》旭化成株式会社 繊維事業本部
商品科学研究所 池永 秀雄 氏

[講座-2] 「日本発！快適素材の今」

《講師》旭化成株式会社 繊維事業本部
マーケティング室 入江 桂子 氏

参加者： 大阪 110名

《学校・学生》 90名

上田安子服飾専門学校、大阪モード学園、香蘭ファッション専門学校
中部ファッション専門学校、名古屋モード学園、文化服装学院、

《一般》 20名

御幸毛織(株)、丸信テルタック(株)、スタイレム(株)、(株)島精機製作、小松精練(株) 他



(大阪)



(東京)

参加者： 東京 240名

《学校・学生》 186名

エスモードジャパン、織田ファッション専門学校、東京モード学園、
ドレスメーカー学院、武蔵野ファッションカレッジ、文化ファッション大学院大学、
文化服装学院、横浜fカレッジ

《一般》 54名

(株)エルトップ、(株)シミズオクト、(株)マルゴ、(株)サンマリノ、ジェイワークス(株)、
蝶理MODA(株)、日鉄住金物産(株)、福助(株)、マツオインターナショナル(株)、
(株)ヨーガンレール、丸紅インテックス、清原(株) 他

講座は2部構成で、「ベンベルグの基礎知識」では、旭化成(株) 繊維事業本部 商品科学研究所の池永秀雄氏が、原料の特長から仕上げ加工までのプロセスや、素材の機能性を活かした商品の研究など、ベンベルグのさまざまな基礎知識を習得するための実学を解説しました。

第2部では、「日本発！快適素材の今」をテーマに、マーケティング室 入江桂子氏が、世界が注目するベンベルグ素材の活用を、ファッションやライフスタイルの最新トレンド情報を交えて語られました。



「11th FORM PRESENTATION」のための必修講義を受講した学生はこの後、このテーマ素材を活かした新規性のあるフォルムのアイデアを具現化するポートフォリオの提案に取り組みました。

■ 11th FORM PRESENTATION” の応募要項

□マテリアル・テーマ：「日本発：未来に向かう快適機能素材」

旭化成は、祖業であり世界オンリーワン製品でもあるキュブラ繊維「ベンベルグ」など、90年近くにおよぶ原糸、原綿、生地作りといった経験で培った技術により、独自性と差別性のあるユニークな繊維素材をグローバルに展開し、次世代を担う先端材料の開発にも注力しています。今回のフォームプレゼンテーションのコア素材は、「日本発：未来に向かう快適機能素材」をマテリアル・テーマとし、「ベンベルグ®（＝キュブラ）」を中心に3種をコア素材にしました。

「ベンベルグ®」はコットンから生まれた再生セルロース繊維（一般名称：キュブラ）のブランドで、旭化成の登録商標です。

□テーマ素材（コア素材）紹介

<p style="text-align: center;"><Outer> 「ベンベルグ」 アウター素材</p>	<p style="text-align: center;"><Lining> 「ベンベルグ」 裏地素材</p>	<p style="text-align: center;"><Stretch> 「ロイカ」 ストレッチ素材</p>
<p>「ベンベルグ」は素肌になじみ、天然由来の洗練されたナチュラルな質感が、エレガントからスポーツカジュアルまで幅広い装いに心地よくフィットします。天然素材（綿、麻、ウール、シルクなど）や化学繊維素材（ポリエステル、レーヨン、アクリルなど）とも複合しやすく、多様な質感や触感が実現でき、また、吸放湿性に優れた衣服内を快適な湿度に保つなど、優れた機能を併せもつ快適機能素材です。</p>	<p>「ベンベルグ」裏地にはやさしさで包み込まれるような心地よさがあります。優れた「吸放湿性」「制電性」「すべり性」などの機能は、最高級の着心地の良さを演出します。また、表地の風合いを保ってより美しいシルエットを表現します。</p>	<p>しなやかな伸びと回復性に優れたプレミアムストレッチファイバー「ロイカ」は、旭化成のもつポリマーサイエンスをベースに生まれたストレッチ繊維です。確かな技術と高品質に支えられ、“顧客ニーズに的確に対応できる機能性に優れたひとクラス上のスパンデックス（ポリウレタン弾性繊維）”で、多種多様な用途やニーズに対応し開発を行っています。</p>

□ファッションテーマ：Future Comfortable Beauty ～未来の快適美を創造する～

混沌とした世の中で、先が見えず“今を生きる”ことで精一杯な時代。街には没個性なファッションが溢れ、時に自分の存在すら見失ってしまう。やがてくる時代をどう生き抜くのか？凝り固まった感覚を捨て去り、自分自身を夢の世界へ飛び立たせ、感性を解き放つことで見えてくる未来。その未来が、己にもこの世界にも心地よく快適な世界であるように、心穏やかに力強く、凛とした自分を思い描き、快適な未来を創造していきましょう！

<デザインにおける着用シーンの提案>

□Street & Casual as Daily use～未来の日常着をもっと快適に！～

□Sports with Function ～スポーツシーンをより機能的に、その先の未来へ！～

□Elegance showing the inside ～内に秘めた快適を外に見せるこれからのエレガンス！～

■ 審査会で8グループを選出～ 審査会報告と講評

東京、大阪で行われた「ベンベルグ大学」を受講した学生のうち、今回はファッション系の専門学校や大学など16校/49のグループから「未来の快適美を創造する」というファッションテーマに沿ったポートフォリオの応募がありました。いずれも“未来の快適美”というテーマに、さまざまな角度から取り組み、作品を通して真剣な姿勢が感じられました。審査は①テーマとデザインの整合性、②デザインと素材の適合性、③アイデア表現の独創性、④作品の完成度など4つの評価で、7月20日に審査員による採点が行われました。その結果、選出された8グループは、8月に行われる企業研修の後、作品制作に臨みます。例年ではありますが、審査結果では上位と下位グループに大差がつかしました。この主な要因は、上記の評価内容への適合性によるところが大きいといえます。ポートフォリオの作成において、これらの評価ポイントを客観的にチェックすることによって、審査結果の差異は是正できるはずで、今回、惜しくも審査通過が叶わなかったグループには、この体験を踏まえて今後の制作において素晴らしいポートフォリオが生まれることを期待しています。

審査に通過したグループは、産地研修会に参加した後、専門家のアドバイスを受けながら、ポートフォリオの具現化に取り組み、独自のテキスタイルを作成し、完成した作品は11月28日、30日に開催されたJFW JAPAN CRIAYION 2018の会場で展示発表されました。

□ 審査内容（以下4項目の評価の合計点で上位を選出）

- ・ テキスタイルと作品の適合性
- ・ 作品表現の独創性
- ・ 作品のリピータ性
- ・ 作品の完成度

11th FORMPRESENTATION 審査通過者

学校名	グループ名（英/和）	テーマ名
エスモードジャパン東京校	TAKAGI SPORTS/ タカギスポーツ	都会のアウトドア
エスモードジャパン東京校	Chill/チル	OFF
香蘭ファッションデザイン 専門学校	capsize/カプサイズ(覆す)	timeless
東京モード学園	IAN/イアン	WAVER
ドレスメーカー学院	Humming/ハミング	empty handed
名古屋モード学園	ink/インク	I my ~私はワタシらしく~
文化ファッション大学院大学	11/11	Dancing on New Planet (スポーツウエア)
文化服装学院	PIA/ピーアイエー	Pole of inaccessibility (到達至難極)

※50音順

※今回の審査では特に“テーマの理解”並びに“素材とデザインの整合性”が重視されました。

■ 産地研修会 「ベンベルグ®」の研究現場を視察

ポートフォリオによる審査を通過した8グループの学生が8月4日、滋賀県守山市にある旭化成商品科学研究所を訪れ、研究内容を視察しました。この産地研修会は、学生が産地の加工場を訪問し、生産の現場に触れる体験をすることで、素材に関する見識を高めることが目的です。また現場で応募デザインを具現化するためのアドバイスを受けるなど、実物製作に向けて実学体験をするカリキュラムとなっています。

JR 守山駅に集合した一行は同研究所に向かい、研究所の概要についての説明を受け「ベンベルグ®大学」で得た知識を補強。そのあと、二つのグループに分かれて研究所を視察しました。この視察は、今回のテーマである「日本発：未来へ向かう快適機能素材」を学ぶのが目的で、最新設備による各種機能研究を実感する研修となりました。

商品科学研究所は、アパレルなどの着用快適性や健康向上を実現する快適機能素材を研究・開発する、世界有数の設備を備えた施設です。研究所内には人工気象室が2つ設けられたほか、各種の運動機能評価装置など、ふだん学校では目にできない研究器機が目白押しで、案内スタッフのわかりやすく丁寧な説明が、“快適機能素材”への理解を深めてくれました。

視察を終えた各グループは、旭化成の専門スタッフやFP（フォームプレゼンテーション）のコーディネーターから、コンセプトや作品と使用素材の適合性などについて、グループごとに最終的なアドバイスを受け、それぞれが使用素材を発注しました。

この後、学生8グループは11月のJFWジャパン・クリエーションの展示発表に向けて、旭化成の生地を使用した作品制作に取り組みました。

□訪問先住所

・旭化成商品科学研究所 〒524-0002 滋賀県守山市小島町515 TEL:077-581-4730



■「JFW JAPAN CREATION 2018」(11月28日～29日)

会場：東京国際フォーラム ロビーギャラリー

～思い思いの成果に賞賛の声 JFW-JC で8グループが最終発表～

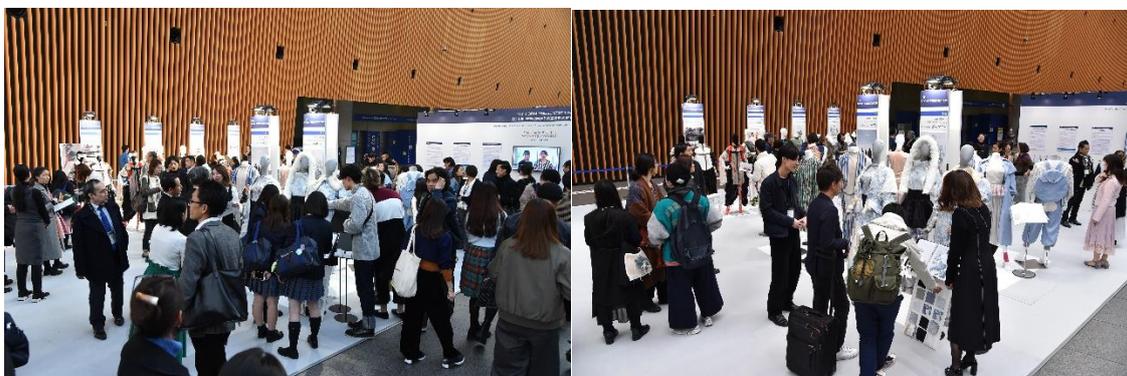
完成した作品は、JFW JAPAN CREATION 2018 ロビーギャラリーに、旭化成の企業PRブースと併設したグループごとの8ブースを設け、展示発表を行いました。規定のスペースの中、学生たちはそれぞれ魅力ある演出でブースを設営しました。同展示会には、2日間で約17,000名が来場。会期中は自作品を熱心にプロモーションしました。学生にとっては、プロの業界人からの厳しくも暖かい意見を聞く貴重な機会となりました。

訪れたデザイナーやマーチャンダイザー、バイヤーなど業界関係者からは、各グループの作品とプレゼンテーションに高い評価が寄せられました。これからのファッション業界を担う彼らに、業界を盛り上げて頑張ってくださいとの激迎の声も上がりました。

前日の準備、展示装飾に取り組む学生(↓)



展示会開催(↓)

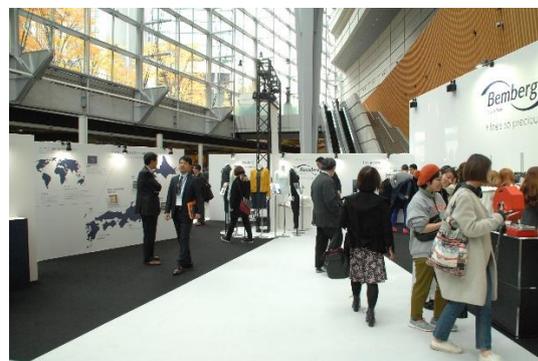




来場バイヤーへプレゼンテーション（↓）



隣接の旭化成 P R ブース（↓）



□参加グループのコメント

エスモードジャパン東京校(TAKAGI SPORTS)

「ベンベルグは、とても薄いテキスタイルで機能的には難しいと思いながらも、あえてスポーツウエアに挑戦しました。スポーツウエアとしての機能はともかく、素材特性とは対極的なフォルムが表現できたと思っています」

エスモードジャパン東京校 (Chill)

「生地が薄くて滑りやすいので、製作には予想以上に神経と時間を費やしました。素材の持ち味をシンプルなデザインに反映するよう心掛けました。これだけ縫うのに苦労した素材は初めてで、それだけにいい経験になりました」

香蘭ファッションデザイン専門学校 (capsize)

「薄いベンベルグを使って立体感を生み出すために、いくつも細かなパーツをつくり、これを組み合わせてフォルムを製作しました。細かなパーツを組み合わせるのに苦労し、それとともに素材がデリケートなので、思いのほか時間がかかりました」

東京モード学園 (IAN)

「生地をテープ状にカットし、これを縫い合わせることでストライプのプリーツを表現しました。ただ、プリーツ加工の工程でミスが生じてしまうなど、いざ製作してみると予想外の難しさに直面しましたが、それも含めて学校では体験できない経験ができました」

ドレスメーカー学院 (Humming)

「テキスタイルの特性としてはドレスなどに向いていると思いますが、こうしたイメージを払拭し、デイリーなカジュアルウエアに仕上げました。ベンベルグが一見するとデニムのように映るよう、バッグなどとの組み合わせで表現しました」

名古屋モード学園 (ink)

「ベンベルグの素材感をいかしながらも、染色技法によってアクティブなイメージを表現しました。ただ、染色加工の段階では染料の浸透性が予想以上に早く、ベンベルグの生地特性に戸惑うこともありましたが、最終的には想定通りに出来上がりました」

文化ファッション大学院大学 (11)

「ダンスウエアをコンセプトにしただけに、躍動感と軽やかな生地の持ち味に重点を置きました。ディテールなど細部よりも動きによるダイナミックなフォルムを優先したため、使った生地の用尺が多くなりました」

文化服装学院 (PIA)

「生地にボリュームをもたせるため、フェイクファーのような襟やレッグウォーマー、そして中綿を用いるなど真冬のアウトウエアを表現しました。インナーやスパッツのフラットな素材感とアウトウエアやアクセサリによるボリューム感が演出できたと思っています」

□JFW JAPAN CREATION 2018」展示発表作品の審査

2日間の会期中には、デザイナーやバイヤーなど専門家による審査が行われました。①テキスタイルと作品の適合性、②作品表現の独創性、③作品のリピータ性、④作品の完成度などの項目による審査で、これによって最優秀賞と優秀賞を決定しました。

審査来場バイヤー61名（デザイナー、MD、小売バイヤー他）

□審査員からのコメント

・アドバイス

- ・与えられた素材で表現する時、素材を優先するのかデザインを優先するのが難しいですね。今回は機能性やデザイン表現が素材とマッチしていない作品が多かった様な気がしたので素直に素材を生かした作品に高い点を入れました。（企画会社バイヤー）
- ・学生の皆さんへ。来場者の方（私も含みます！）は、皆さんがデザインしたお洋服にとっても興味があります。もっと話し、素材をさわらせて、まきこんで夢中になれるくらいアプローチしてもらえたらな、と思います。シャイだともったいないですよー！（アパレルバイヤー）
- ・ベンベルグを色々な形で展開して学生さんの思いは伝わっています。これからはあらゆる素材にチャレンジして幅の広い素材をつかいこなせるように努力してください。期待しています。（企画会社バイヤー）
- ・新しいアイデアと息吹を感じました。しかし素材特性の考察からデザイン展開されているものが少なく感じました。より素材の考察を！（バイヤー）
- ・I D E Aがすばらしい！！完成度を上げましょう。（問屋・商社）
- ・デザインはとても良いと思います。完成度がもうすこし低いと思います。今度ともがんばってください。（バイヤー）
- ・もっと自分のスタイルを持った作品を。（デザイナー）

・好評価

- ・昨年までより、プレゼン資料が良くなった。（企画開発会社）
- ・細部まで語れるデザイン、ストーリーに感激しました。とても刺激を受ける機会をいただきました。（官庁・団体）
- ・素材への理解度が高く、感心しました。（繊維製造・加工業）
- ・全体的に素材を生かしたデザインが多くありました。また、完成度も高いと思います。（官庁・団体）
- ・皆様は手作りでガンバトル事が伝わります。アイデアは素晴らしいです。バイヤー（小売）

- ・ 皆さん独創的なアイデアで、とても完成度の高い作品を作られていました。(アパレル)
- ・ 頑張りどエネルギーが作品で表現されていきました。皆さん、とても良い作品に仕上がっていたと思います。(その他)
- ・ 美しい作品ばかりで、びっくりでした。とても服作りのこだわりが上手く表現されていきました。続けて見てみたいです。(デザイナー)
- ・ どのチームも素晴らしくオリジナリティがあり、テーマもしっかりしており、完成度も高かった。これから業界に入りますますます羽ばたいてほしいです。(繊維製造・加工業)
- ・ 良く考えられてすべてすてきな作品でした。PRの話の組み立ても聞いていて楽しいグループもあり、そこもポイントでした。これからはがんばってください。(アパレル)
- ・ テーマの快適美というところの解釈が各学校それぞれで良かったです(マスコミ)
- ・ どれも完成度が高く、それぞれ素材に対してのアイデアがあり、とても美しいものばかりでした。(デザイナー)
- ・ 学生ながら独創性に優れた作品ばかりでした。今後もクオリティーを高めながら頑張ってください。(バイヤー)
- ・ ベンベルグの良さと上品さが全体的に表現されていた。(繊維製造・加工業)
- ・ 学生の熱心な取り組み感心します。(学校関係者)
- ・ 今回の作品は皆さん素材の特性にちゃんと向きあっていて、その点ではどれも良く考えていると思いました。私自身のベンベルグのイメージを変えてくれる作品もありました。(マスコミ)
- ・ デザイン素材コンセプト等詳細な説明ありがとうございました。(繊維製造・加工業)
- ・ 予想外に学生の説明が熱心でおどろきました！(繊維製造・加工業)
- ・ 皆さん作品へのストーリーを熱く語って下さって感激しました。おつかれ様でした。(繊維製造・加工業)
- ・ 着眼点が面白い。デザインのこなしも良く出来ている。(企画コンサル)

・ 激励コメント

- ・ がんばってください。(デザイナー)
- ・ これからが楽しみです。(繊維製造・加工業)
- ・ これからのアパレル業界、盛り上げて下さい。(企画会社)
- ・ 日本のファッション産業を自分のために頑張ってください！！(その他)
- ・ これからのファッション界をぜひ盛り上げて下さい！(マスコミ)

■展示作品 ※<F-小間番号>順

<F1>

校名：ドレスメーカー学院

グループ名：ハミング/Hamming.

出居 朱音（*）
牛久 晴香 古俣 久瑠美
小野崎 ひかり 酒井 麻緒
小野寺 莉乃 上西 佑実
石井 美咲

テーマ名：empty handed



<F2>

学校名：エスモードジャパン東京校

グループ名：チル/Chill

有友 由理（*）
川畑 麻美
輿石 みすず
HE MENDI

テーマ名：OFF



<F3>

学校名：香蘭ファッションデザイン

専門学校

グループ名：

カプサイズ(覆す)/capsize

岡本 将宗（*）
久保 亜かり
古川 珠代

テーマ名：timeless



<F4>

学校名：名古屋モード学園

グループ名：インク/ink

村山 大介（*）

伊藤 香苗 大倉 衣織

鈴木 芹奈 林 杏夏

宮嶋 博香

テーマ名：I my ～私はワタシらしく～



<F5>

学校名：エスマードジャパン東京校

グループ名：

タカギスポーツ/TAKAGI SPORTS

松浦 良介（*）

高木 鞠果

打木 啓太

テーマ名：都会のアウトドア



<F6>

学校名：文化ファッション大学院大学

グループ名：11/11

齋藤 利保（*）

木村 智宣

テーマ名：Dancing on New Planet
（スポーツウエア）



<F7>

学校名：東京モード学園

グループ名：イアン／IAN

中山 一路（*）

荒木 絵利加

石神 りさ

テーマ名：WAVER



<F8>

学校名：文化服装学院

グループ名：ピーアイエー／PIA

江口 圭介（*）

高山 杏奈

テーマ名：Poleof inaccessibility

（到達至難極）



（*）＝ グループ責任者

■審査発表

最優秀賞

エスモードジャパン東京校



チル/Chill



有友 由理（*）

川畑 麻美 輿石 みすず HE MENDI

優 秀 賞

文化服装学院 ピーアイエー/PIA

江口 圭介（*） 高山 杏奈



旭化成 賞

香蘭ファッションデザイン専門学校
カプサイズ(覆す)/capsize

岡本 将宗（*）
久保 亜かり
古川 珠代



■ 「報告会」 成果報告と優秀者表彰

JFW-JC2018 で展示発表された“FORM PRESENTATION”に参加した学生グループの報告会が、12月20日に、東京・渋谷の文化ファッションインキュベーションで開かれました。8グループの学生、教員、協力企業、協賛団体関係者などの53名が参加しました。

報告会では、コンセプトの立案から服地の選定、作品制作にいたるプロセスを報告。「JFW-JC参加は貴重な体験であった。」「グループで1つのテーマに取り組むことがとてもよい体験になった」とのコメントが相次ぎました。



報告会の後、JFW-JCの会場に訪れた業界関係者による審査の発表が行われ、最優秀賞のエスモードジャポン東京校 Chill（有友由理さん代表）、優秀賞の文化服装学院 PIA（江口圭介さん代表）には賞状とトロフィー、旭化成賞の香蘭ファッションデザイン専門学校 capsiz（岡本将宗さん代表）にはトロフィーが贈られました。



■ 総評

第11回となる、“FORM PRESENTATION”は、キュプラ繊維「ベンベルグ」をテーマに、世界オンリーワン製品として、その原糸、原綿を製造するメーカー、旭化成(株)繊維事業本部とのコラボレーションを行いました。最先端の技術を駆使した3マークをコア素材として取り上げ、製作に取り組みました。ファッションテーマは「Future Comfortable Beauty～未来の快適美を創造する～」。3つの着用シーン（「未来の日常着」、「スポーツを機能的に」、「これからのエレガンス」）の中からデザインコンセプトを立案し、素材の持つ美しさと機能性を最大限に活かした新しいスタイルを追求しました。完成した作品はそれぞれの個性とアイデア溢れる仕上がりでした。

今回も多数の学校が参加し、ポートフォリオもレベルの高い大変すばらしい応募が多数ありました。具現化した作品も高い評価を受け、展示発表の会場では、審査員から多数の激励コメントやアドバイスが寄せられました。アイデアの独創性や表現は、学生らしい自由な発想との良い評価を得ました。展示発表での積極的なプレゼンテーションも印象的でした。審査、講評コメントをいただいた方々は、この事業に参加した学生たちの今後の活躍に大きな期待を寄せています。

■ 兼巻 豪（チーフコーディネーターの声）

本プログラム（Form Presentation）は、最終的に制作する作品に“今”というリアリティがあるのか、、、という学校のプログラムにはない（アパレルにおいて一つの製品を完成させるまでの）実学であることに意味があると思います。デザインしてフォルムにすることは普通の授業の中でもあること。しかし、本プログラムには大きな命題として「素材への知識を深める」ということが、社会への疑似体験を経験する貴重な機会であったと思います。それは、実際に素材を手にし、デザインと照らし合わせて選択し、発注し、届いた素材でいかに期限までにフォルムを完成させるとかという生産管理の業務にもつながる。学生にとっては未知の領域であるけれども、アパレル業界に就職すれば避けては通ることのできない工程を皆、必死にこなしていたように思います。素材セレクト、デザイン変更、素材発注・・・様々な場面で質問をもらい解ったことは、「自分がしたいことと、出来ることのギャップ」だったのではないだろうか。

今回のテーマに挙げた「Future Comfortable Beauty ～未来の快適美を創造する～」は、来る2020年の東京オリンピックを境に、日本の生活や物の価値観が変化することになるだろうと思い、近未来をどのように捉え、ファッション業界に新しい価値観を投入で

きるのか？を考えた設定だった。

全てがシステムチックになり、AIが至るところで人間と共存する社会はもう目の前まで来ているが、ただ単に洋服を作るという作業はもう人手を介さなくてもよくなるのかもしれない。ファッションとはその時の社会や経済、環境を反映する鏡として商業の中にあるものだと思う。そのファッションという文化を後々まで残し、進化させるためには、人間の感性のみがその存在の有無を左右していくのだとも思う。今回、フォルム制作までたどり着いた学生は、“作業”ではないファッションを創造することの真の意味を肌で感じたのではないだろうか。時には厳しく指導させていただいた場面もありましたが、今回の一連のプログラムで、自分だけが感じた「何か」があれば、それを是非とも未来に向けて進化させ、昇華させて欲しいと願っています。

追記：

■完成した製品について

制作した作品は制作者の所有となりますが、展示会終了後 1 年間は、販売促進やプロモーションのため、協力企業からの貸出の希望などが出た場合はご協力をお願いしています。

また、学校内イベントなどで再度展示発表する場合は、レポートの報告などをお願いしています。



本校ロビーに展示 ➤
10 t h（ドレスメーカー学院）